社会福祉 社会保障 は、いま ㉒

目指す社会像
～自助・共助・公助とは～

新政権が誕生し「目指す社会像」として、「自助・共助・公助」を掲げ、「まず自助」が大切だと強調しました。

この発言に対し「苦労してたたき上げ立身出世をとげた首相らしい」と評価する声があった一方で、「自己責任を真先にあげるとはいかがなものか」といったセーフティネット責任者からの批判的な論調もありました。

「自助・共助・公助」とは何か。言葉の意味するところは学問的にあいまいで、どのような社会的立場、文脈で語るかによっても違ってきます。したがって「自助・共助・公助」の比重や関係、取り上げる視点が重要となります。

社会福祉学では、社会問題を個人の責任・問題とすることはありません。あくまで「社会的にみる視点」を大事にします。そして当事者の尊厳と自立を支援の骨格に置きます。

例えば、コロナ禍で失業を余儀なくされ生活困窮に陥った事例が発生したとしましょう。さて、どうするか。①まず、生活相談を行い、臨時的な応急処置をとる。②自立（自律）支援に取り組み、政策・制度、施設、組織等につなげる。③社会的孤立を防ぎ、自立支援のネットワークにつなげ、主体的に活動できるように支援する。

つまり、社会問題とみる視点で、まず「公助」な制度を活用してもらいます。しかし、自ら生活困難を主体的に切り拓こうとする自立心（自助）が重要となるため、生活意欲が生まれるよう、当事者の夢と希望を尊重し、側面からサポート（共助）するようにします。当事者は、生活困難を共に改善していこうとする仲間たちや支援者（共助）とつながることによって、社会的孤立を克服し、生活困難に立ち向かう自立の心を持つことが可能となるのです。

社会福祉学は、まず「自助」、次に家族・地域による「共助」、それがだめなら最後に「公助」といった縦割構造の図式をとることはありません。「自助・共助・公助」は相互に関連しており、社会問題を個人の責任としてではなく、社会的な視点でとらえる必要があります。

社会問題の改善は、相談体制や専門職の配置、研修・教育システムの整備を前提とした政策・制度が基礎となります。

まず「公助」を整備し、「自助」、「共助」が機能しやすくする連携図を実現させていくことこそ重要ではないでしょうか。

大友信勝
（社会福祉法人サンシャイン福祉振興会理事長・聖隷クリストファー大学大学院教授）

文芸コーナー

短歌　俳句　川柳　浸俳

・ひと日くれ小鳥の群がちらちらと沈む夕陽へかげおとしゆく　とくよ

・笑顔さえあれば何もいりませんワハハと笑いウフフと笑う　秀子

・月見草待てば心に灯がともる　康子

・行く末を雲にまかせて秋の暮　柳子

・敷松葉ふんで歩きのここちよさ　ちず子

・あつくてもゆたむしがきた冬が来た　はぎ江

・冬の前さむさがじかに身にしみる　貫一

・小春日に一枚脱いで鍬を振る　千枝

・悴みてケーキ一ツを妻と分け　二三夫